

たすけあう そんなしやかい つくりたい 男女とも 得意なことを 生かし合おう 人と人 いろいろな心を 大切に それぞれの こせいがいきる まちづくり 仕事場で 妹上司 おれ部下だ 父と母 今日も仲よく

さかせよう ぼくとわたしの いところ こまっても たすけあえば みなえがお おもいやり 仕事も家事も 一緒にね よるごはん はがつくって ちちあらう 家ぞくでね ぎづいた人から おてつだい おてつだい みんなの笑顔 うれしいな

薩摩川内市 男性共同参画フォーラム ワークショップ①

このワークショップでは、まずAさんをモデルに、時系列で該当する法律の紹介がありました。

知って得する 女性の身近な法律

北薩女性工業会

62歳 離婚 ○離婚時年金 分割制度

50歳 介護 ○雇用保険

33歳 出産 ○育児介護 休業法など

30歳 結婚 ○民法 ○労災法など

22歳 就職 ○労働基準法 ○男女雇用 機会均等法

後半のグループでの話し合いでは、「育児の方には手当て等があるのに介護にはない」「介護の保障を厚くしてほしい。」などの意見が出ました。法律は、思っているよりずっと身近なものです。知らないでいて、損していませんか？

◆お問い合わせは、社会保険労務士 吉永亜矢 電話 0996(32)9560

写真: ワークショップの様子

薩摩川内市 男性共同参画フォーラム ワークショップ②

男女共同参画社会とメディア・エンターテインメント

自分を好きになるために、メディアを読み解く力をつける

左の絵のイメージが男・女・どちらでもないのどれに当てはまるか分けてみよう。

これは男？女？——意外と固定したイメージがあるのでは？例えば、某ビール会社のコマーシャルでは男性が汗をかきながら、ジョッキを持ち、おいしそうに飲んでいきます。この映像から、私たちは、『ビールは男性が豪快に飲むものだ』という印象を受けます。

また某柔軟剤のコマーシャルでは、女性が音楽に合わせて楽しそうに洗濯しています。この映像からは、『洗濯は女性が楽しみながらするものだ』という印象を受けます。

一日の多くの時間をメディアに触れて過ごす私たちは、無意識のうちにあらゆる行動の判断基準や価値観をメディアからの情報によって大きな影響を受けている可能性があります。このことを考える時、私たちの社会に根強く存在する性別役割分担意識の解消に向けては、メディアが提示する性別に関する固定イメージを読み解くことは大変重要な課題です。

◆出前講座などのお問い合わせは、オフィスピュア 高崎恵 電話 099(224)7131

写真: ワークショップの様子

—— 今回のフォーラムの基調講演はNHKテレビ等でおなじみの ——

佐々木 常夫 氏 (株式会社東レ経営研究所代表取締役社長)

「私は仕事も家族も決してあきらめない」

自閉症の長男と、肝臓病に加えうつ病を併発した妻を支えながら家族を再生した体験談。仕事と難しい状況の家庭との調和を図るための工夫は？自分の部署だけ社員が早く帰宅できるようになったのは、どうやって？会社や社会がより良くなっていくために必要なものは？

佐 佐々木氏、特に関心のある、自分の最大の戦友であり、最良のパートナーだと思っていた娘が自殺未遂したときは……。でも、いつかきつと良い日が来ると信じていました。楽天的なんです。そして、今、妻の状態も落ち着いて、妻の美味しい手料理をこうやってまた食べられて、幸せです。(こちそうさまです！)

問 自分と家庭生活も維持していくために、どうされましたか？

佐 障害や病気は恥ずかしいことではないのでオープンにしよう、と事情を全部会社側に話し、帰宅時間や緊急の場合の支援を頼みました。もちろん

佐 僕が好きな結婚した妻だし、自分の子どもだからちゃんと面倒みるのは当たり前でしょう？

問 でも、やっぱり落ち込んだときもあったのでしょうか？

佐 はい。特に、自分の最大の戦友であり、最良のパートナーだと思っていた娘が自殺未遂したときは……。でも、いつかきつと良い日が来ると信じていました。楽天的なんです。そして、今、妻の状態も落ち着いて、妻の美味しい手料理をこうやってまた食べられて、幸せです。(こちそうさまです！)

佐 僕が好きな結婚した妻だし、自分の子どもだからちゃんと面倒みるのは当たり前でしょう？

問 でも、やっぱり落ち込んだときもあったのでしょうか？

佐 はい。特に、自分の最大の戦友であり、最良のパートナーだと思っていた娘が自殺未遂したときは……。でも、いつかきつと良い日が来ると信じていました。楽天的なんです。そして、今、妻の状態も落ち着いて、妻の美味しい手料理をこうやってまた食べられて、幸せです。(こちそうさまです！)

佐々木氏著 「部下を定時に帰す仕事術」 (WAVE出版)

◇詳しくは、佐々木氏著 「部下を定時に帰す仕事術」 (WAVE出版)

私達の薩摩川内市の「多様性許容度」はどのくらいと言えるかなあ。いろいろな委員会などでも随分女性の登用が増えてきているようだけれど、佐々木さんの言うような意見のやりとりとかぶつかり合いなどがあるのかなあ。

会社などでは、どうなんだろう？

家庭生活も守ってくれる会社ももっと増えたら、その方が返って社員のやる気が増えて、会社にとってもプラスだって……。これからもっとワークライフバランスや多様性社会について、みんなで学んで取り組んでいきたいね。

キーワードは ワークライフバランス！

写真: 佐々木氏著の書籍